

令和七年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語 (その一)

受験番号

※答えはすべて解答用紙に書きなさい。 ※選んで答える問題は記号で答えなさい。

※特にことわりのないかぎり、句読点やかぎっこはすべて字数にふくみます。

※設問の都合上、本文に一部省略があります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

学生の時に将棋しょうぎを指していましたが、^{*}アマチュア強豪きやうごうには A に衣着せぬ物言いをする人をしばしば見かけました。私が所属した大学の将棋部でも、一般の会話では聞いたことがないような辛辣しんらつな言葉が飛び交かっていて、私もたびたびそういった辛辣な罵倒ばとうの対象となり、悔しい思いをしなかったと言えど嘘うそになります。私はそんな将棋指したちのことが、結構好きです。

¹将棋の世界は「優しい嘘うそ」が通用しない、というか、有意義に機能しない場所です。詰みつみがある局面では、誰だれがどう言ってもそれは詰んでいるのであり、それを読めなかった人は弱いのです。それ以上でもそれ以下でもない。将棋に勝った人が負けた人に向かつて「指そうと思ったら、隣のコマに指が当たって動いて、それがたまたま好手になりました」とか、「全部、良い手を指されたのに、私の勝ちになっていて、一体どうなってるんでしょね」とか、A の浮くようなことを言ってみても、嘘がバレバレで軽蔑けいべつされるだけです。たといくら辛くとも、本当のことを言わなければ、負けた原因がわからず、相手も自分も将棋が強くない。だから将棋指しは知らず知らずのうちに、本当のことを言ってしまう癖くせがついています。

しかし、²そういった将棋指しの習い癖くせは、^{*}外の世界ぐわいのせかいに出ると一定の頻度で問題を引き起こします。それは私の人生において時に起こってきたことであり、一部の将棋部の先輩後輩諸氏せんぱいこうはいしよを見ていると容易に想像できることです。本当のことを言い過ぎると、ある種の社会不適応者という烙印らくいんを押おされてしまうのです。それは、この世には本当のことを言われると困る人が結構たくさんいるし、一面的な「本当」を主張するだけでは解決しない問題も、現実にはとても多く存在しているからです。

中国の有名な³故事成語こしじやうごに「鹿を指して馬と為す」という言葉があります。これは秦の始皇帝しやうこうてい亡き後、権勢を誇った宦官かんかんの趙高ちやうこうに関する逸話いっわです。趙高は幼き二世皇帝の胡亥こがいを傀儡くわいにして帝国の実権を握にぎっていましたが、ある時胡亥に「珍しい馬がおります」と鹿を献上けんじやうしました。胡亥が「これは鹿ではないか」と問うと、趙高は「いいえ、これは珍しい馬でございます。皆はどう思うか？」と周囲の家臣に尋ねました。これは群臣の自分への忠誠心を試すために行った趙高の策略で、鹿だと答えた家臣は、軒並み捕らえられて処刑しよけいされたそうです。一説には、これが馬鹿の語源となったとも言われており、鹿を馬というのはバカなことというふうにも、そんな状況がバカげているというふうにも解釈できる話です。

現代ではさすがに処刑されることはないですが、本当のことを言うことで、自分が属する組織が困ったことになったり、関連する人との人間関係が悪くなったり、あるいは自分の評価が下がったりというような状況は、B ^{*}ごくごく普通ふつうに発生します。だから、多くの人がそのバカな状況をどうにかこうにかやり過すごしてしています。言う必要のない本当のことは黙だまっていたり、わからないとか、知らないことにしたり、あるいは聞き直なおって嘘を言うこともあるでしょう。ある国の総理大臣は国会で118回も嘘の答弁を行い、その理由を「秘書が本当のことを知らせなかったから」と説明しました。私は⁴この総理大臣が少なくとも119回の嘘をついたのではないかと思います。本当のことが言えない、もしくはとても言いにくい状況というものは、このように現実ひんげんに頻繁ひんぱんに起こります。

⁵「嘘をついてはいけません」。物心ついた時から、私たちはそう教わり続けます。幼稚園でも、小学校でも、中学校でも、そして大人になっても。しかし、この世は「嘘」、少なくとも「本当でないこと」に満ち溢あふれています。その中には鹿を馬というような自分を守る嘘もあるでしょうが、必ずしもそういうものばかりでもありません。灰谷健次郎はいたけんじろさんの『少女の器うつわ』という小説に、⁶主人公の紺と上野くんという少年のこんな会話が出てきますが、私はこのくだりをとて印象深く覚えています。

「その章子さんという人ははじめ、おまえのおやじが好きやってんやろ。結婚けっこんしてもらわれへんので、よその男のそこへ行つたと。そやろ」
そういう復習の仕方に紺はとまどったが、一応、

「そう」
とこたえておく。

「そうしたけど、うじうじするから、よう考えたら、やっぱりおまえのおやじが好きやったというわけや。なんとかならへんかというてしっば巻いて帰ってくる人間にカッコええのがおるか。前と違ちがう章子さんだったとおまえいうけど、そんなん当たり前や」
惚れた弱みというのをおまえ知らへんからなあ、と少年はいった。

令和七年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語（その二）

「頭のええ人間ちゅうのはやっぱり冷たいワ。ドブに落ちた犬見て、あの犬汚い、汚い、いうたら犬かて立つ瀬ないワ。おまえ、なんで、おれを睨むねん」

緋は唇をかんでいる。

世の中には、それが本当であっても言わなくていいこと、本当のことを言うことで事態が良くなること、そんなこともたくさんあります。⁷「優しい嘘」が人としての生きる知恵であり、必要悪として存在していることは紛れもない事実です。そこで「いや、だってあの犬、汚いやんか」と言ってしまうのが、将棋指しだったりするのですが、「優しい嘘」というものが、本当に悪いことなのか、どこまでが許されるのか、私にはよくわかりません。

将棋の世界で「優しい嘘」が有効に機能しないのは、結果が短期間に出る、良し悪しが明白な世界だからだと思います。勝ちに導く手が好手で、負けにしよう手は悪手です。しかし、現実の世界はそんな単純にはできていない。ドブに落ちて泥にまみれる経験をするのが、その後の人生の成功につながっていくようなことはよくある話です。ドブに落ちたら負け、ではないのです。だから、ドブに落ちたことを責め立てるより、その傷を癒し、心も体も回復させていく「優しい嘘」の方が長期的な、C、となることだと思います。

また、嘘はいけなと言っても、鹿を鹿と言えは首をはねられることがわかっている状況で「鹿！」と言うのは、実際*鹿鹿なことではないのかと、思わぬこともあります。映画やドラマであれば、そういう馬鹿な正直者を助けてくれるヒーローが出てきたり、その人がヒーローに変身できたりするものですが、現実にはそんなことは起こりません。^{*}物言えは唇寒し秋の風とは、^{*}蓋し名言です。

では一体、なぜ私たちは嘘をつくことがいけないと教わり続けているのでしょうか？その本当の問題は、安易に嘘をつく生き方、その生きる姿勢にあるのではないかと、私は思います。生きていると、いろんな苦しいことがやってきます。志望校に入るために勉強することや試合に勝つためのスポーツの練習もそうでしょう。与えられたノルマをこなすことや、何かの仕事を成し遂げることなど、苦しい思いをしなければ達成できないことが多くあります。もちろん中には、そうやって頑張ってみても越えられない困難もあるでしょう。結果が失敗に終わること自体は決して悪いことだと思いませんが、私がここで問題にしているのは、そういった困難や苦しさで真剣に向き合わず、安易に逃げてしまうことです。それは心理的な癖のようなものになり、人として成長するための大切な基盤を蝕んでいきます。

嘘をつくという行為は、そういう困難や苦しさから逃げてしまうことと根が同じだと思います。嘘をつけば、目の前の問題がとりあえずその場では解決します。でもそんなやり方が当たり前になってしまうと、人はいざという時に頑張れなくなってしまう。いつも何かを誤魔化して生きること慣れてしまうのです。そういった精神の在り方が、その人の人生全体を何か偽物にしてしまう。

嘘や不善とまったく無縁のヒーローのように常に格好よく生きることが、生身の人間にはなかなか難しいことです。でも、「はい、趙高さま、それは馬でございます」⁸と魂を売ったような生き方をするのも、やっぱり違う。私たちはそのはざまで、ちょっと格好悪く、でも頑張って生きて行く。そんな生き方しか残されていないのではないか、そんなふうに思ったりもするのです。常に⁹理想を追い求めていけば良いというほど世界は単純ではないけれど、それは理想を忘れてよいということとは、やはり違うのです。

だから、いつも鹿を鹿と言う必要はないのかもしれないけれど、もしたとえば、自分が馬の分類の専門家だったら……、そう、もしそうなら、Dと思うのです。人生にはそういうことが必要なことはあるし、^{*}鹿鹿になっても悔いがない、と思えるようなものを持ってない人生は、なんだかつまらない。私は将棋指しの端くれとして、そう思うのです。

（中屋敷均『わからない世界と向き合うために』より）

※アマチュア……しろうと。

※辛辣……きわめて手厳しいこと。

※罵倒……ひどく悪く言うこと。

※詰み……為す術がなく、負けが決まる状態。

※秦……中国古代の国名。

※宦官……中国で後宮につかえた男の役人。

※傀儡……あやつり人形。

※物言えは唇寒し秋の風……うっかり口を滑らせたために、自分で後悔することという。

※蓋し……まさしく。

*鹿鹿……本文における表記は、作者の意図によるものです。

令和七年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語 (その三)

1 A に入る体の一部をあらわす語を、漢字一字で答えなさい。ただし、A は本文に二か所あります。

2 ——— 1 「将棋の世界は『優しい嘘』が通用しない」とありますが、それはなぜだと筆者は考えていますか。次の空らんの条件に合うように、本文からぬき出して答えなさい。

将棋の世界は（ 二十字 ） だから。

3 ——— 2 「そういった将棋指しの習い癖は、『外の世界』に出ると一定の頻度で問題を引き起こします」とありますが、

(1) 「そういった将棋指しの習い癖」とはどのような癖ですか。「ゝ癖。」に続くように、本文から十二字でぬき出して答えなさい。

(2) 「問題」が起こってしまった状況について具体的に説明している部分を「ゝ状況。」に続くように、本文から六十字でさがし、はじめと終わりの六字をぬき出して答えなさい。

4 ——— 3 「故事成語」とありますが、次の空らんに入る故事成語を、それぞれあとのア～キから選んで答えなさい。

① 二人の意見は、どちらも物足りない。（ ） だね。

② 兄弟でお菓子^{かし}をめぐるって言い争っているすきに、父にバクッと食べられてしまった。父は（ ） を得た。

③ 言い訳はもうたくさんだ。君の話は（ ） だらけで、筋が通っていないよ。

ア 矛盾 ^{むじもん} イ 助長 ウ 螢雪^{けいせつ}の功 エ 背水^{はいすい}の陣 オ 漁夫^{りふ}の利 カ 五十歩百歩 キ 朝三暮四^{ちようさんぼくし}

5 B に入る「いつでもどこでも」という意味の四字熟語を、次の漢字の中から四字を組み合わせて答えなさい。

東 西 南 北 古 昔 今 現 先 末

6 ——— 4 「この総理大臣が少なくとも119回の嘘をついた」とはどういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 実際に嘘をついた回数を正確に数えられないということ。

イ 総理大臣には「嘘はついてはいけない」という考えが全くないということ。

ウ 嘘の答弁の原因が秘書にあったことを国民に隠^{かく}していたということ。

エ 総理大臣の「秘書のせいだ」という説明は本当のことではないということ。

7 ——— 5 「嘘をついてはいけません。物心ついた時から、私たちはそう教わり続けます。」とありますが、筆者はなぜ嘘をついてはいけないと考えているのですか。五十五字以内で説明しなさい。

8 ——— 6 「主人公の紺と上野くんという少年のこんな会話」とありますが、筆者は何のためにこの会話を挙げているのですか。最も適するものを、次の中から一つ選んで答えなさい。

ア 本当のことを伝えることで、相手が不快に思うこともあるということを伝えるため。

イ 本当のことを伝えることで、かえって問題が悪化することが多いということを伝えるため。

ウ 本当でないことを伝えることで、相手との関係が良好になるということを伝えるため。

エ 本当でないことを伝えることで、たいていの問題は解決するということを伝えるため。

9 ——— 7 「『優しい嘘』が人としての生きる知恵であり」とありますが、具体的にどうすることが「生きる知恵」だと言えますか。7より前の本文から五十四字でさがし、はじめと終わりの五字をぬき出して答えなさい。

10 C に入る語として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 事態 イ 名言 ウ 好手 エ 悪手

令和七年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語 (その四)

11 ——— 8 「魂を売ったような生き方」とありますが、それはどのような生き方ですか。次の空らんの条件に合うように、本文からぬき出して答えなさい。

本当は (Ⅰ 一字) (でないものをあえて) (Ⅱ 一字) (と言うように、平気で) (Ⅲ 四字) (ような生き方。

12 ——— 9 「理想」の対義語を、本文から二字でぬき出して答えなさい。

13 D に入る語句として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア やはり[〃]鹿[〃]と言おう
イ やはり[〃]馬[〃]と言おう
ウ しぶしぶ[〃]鹿[〃]と言うしかない
エ しぶしぶ[〃]馬[〃]と言うしかない

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

コロナ禍^かで小学校が休校となり、るるは久しく会っていなかった母の姉である聖子^{せいこ}とともに、古い家の片付けと^{*}リノベーションに取り組むことになった。

^{*}ダイニングキッチンは、着々と完成に近づいていた。

キッチン部分の壁^{かべ}には、レモンイエローのペンキを二度ぬりして、吊り戸棚^{とだな}をはずした跡^{あと}をきれいに隠^{かく}した。応接間の床^{ゆか}にはフローリングシートをして、おじいちゃんの書斎^{しよさい}からおろしたローテーブルと、ラタンのカウチソファをまんなかにすえた。

縁側^{えんがわ}の床は、テラコッタ系という、ちょっと素焼^{すやき}きのレンガみたいな色のフロアタイルを貼^はって、掃^はきだし窓^{まど}の外の縁台^{えんたい}とつながった屋内テラスふうにした。ここにガーデンテーブルを置いて、お日さまを浴びながら朝ごはんを食べるのは、きつとすてきだろう。

わたしは作業のうち、それほど危険じゃないものを、できるだけ手伝ってすごした。木材に「サンダー」というやすりをかけてツルツルにみがいしたり、電動ドリルにドライバーをつけて、^{*}ビスを打ちこんだり。そうやって覚えたことは、いつか自分の力だけでもやれるように、手順をイラスト帳に、図入りでメモしていった。

「へえ、るるこ、¹絵描^かくのうまいね。」

後ろからイラスト帳をのぞきこんできた聖子さんが、そう言ってほめてくれた。

「え、そんなことない。みんなもつとじょうずだよ。本物のマンガ家さんみたいなイラスト描ける子、学校にいっぱいいるし。」

「でも、そういう子がうまいのは、たぶん、人物とかキャラ画なんじゃない? そうじゃなくて、こういう設計^{けいけい}画的なものを描く才能、あると思うよ。」

「……ほんとう?」

自分の中に、²なにかの「才能」なんてものがあるとされていて、わたしは急に、胸がドキドキしてきた。

「うん。ほら、これなんか、室内の遠近感が、正確にだせてるし。この椅子^{いす}も、奥行き^{おくゆき}がしっかり描ける。建築や設計の仕事ってさ、べつに、絵がうまい必要はないんだけど、空間のイメージがしっかりつかめてないと、できないんだよね。たぶんるるこには、ものを三次元でとらえる力が、ちゃんとそなわってるんだと思うよ。」

「ほんとう? え、ほんとうにほんとう? え、ほんとうにほんとうにほんとう?」

どうしようもなく、にまにまどくずれた笑顔^{えがお}になりながら、わたしは、それしか言えなくなったみたいにくりかえした。うれしくて、はずかしくて、顔が熱くなってくる。

「興味があるなら、あたしが基礎^{きそ}を勉強した教科書があるから、あげようか。」

と言って、聖子さんは自分の荷物から何冊かの本をとってきて、わたしの本棚^{ほんだな}に入れてくれる。

「それにいまは、DIY系のいい動画が、ネット上にたくさん転がってるからね。あれ、観^みてるだけでも、すっごく勉強になるよ。」

「ディーアイ……なんて?」

「D・I・Y。Do It Yourselfの頭文字^{かぶみじ}。」

「ドゥ・イット・ユアセルフ……。『自分自身でやる』?」

「そう。家の修理とかリノベーションを、専門家に頼^{たの}まないで、自分の力でやっちゃうことを、そう言うの。」

「へーえ。なんか、かっこいいな、それ……。」

令和七年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語（その五）

3 それ以来、わたしはもっと積極的に、絵を描くようになった。アニメのかわいい女の子とか、キャラクターの模写とかじゃなく、本棚や、階段や、電動ドリルの絵を描いた。動画サイトのDIYチャンネルを見て、そこに出てきた部屋の中の見取り図を描きだしてみたり、自分だったらこんなふうになおしたいと思った設計図も描いた。

勉強したり、絵を描いたり、作業を手伝ったり。その合間に、前の部屋に置きっぱなしの自分の持ちものの整理も始めていた。お母さんの部屋の拡張が始まるまでに、ここをからっぽにしておきたい。

マンションから引っ越してくるときにもだいぶ減らしたから、捨てるものが、そんなにたくさんあるわけじゃない……と、思っていたけど、「心を鬼にして」ながめると、こっちにきてから一度も着てない服とか、もう遊ばないゲームとか、おこづかいで衝動買いしたキャラクターグッズとか、まだまだある。

4 とういか…… 書斎に部屋をうつしてから、この部屋に残したものが必要になって、とりにもどったことって、一回もないんだよね……。

いまの部屋に似合う、すてきなものだけを持ってまず移動したら、それでじゅうぶんまにあっているし、なんなら以前よりも、満ちたりて暮らしてる。

「つまり、あの部屋に残したもので、ぶっちゃけ全部ゴミ？ って気がしてきちゃったの。」

お昼のホットサンドを食べながらそう言うとき、聖子さんはやりと笑って答える。

「ふっふっふ、るるるも、ミニマリストの道を歩きはじめたか。」

「ミニマリスト、って？」

「持ちものをできるだけ減らして、必要最小限の上質なもので、シンプルに暮らそうって考えかたよ。じいさんばあさん世代の、捨てられないものにうまって苦労する時代をへて、もうこんなのはやめたい！ もっとスッキリ暮らしたい！ と思った人たちの中から、そういう思想が生まれて、ひろまったんだらうね。」

ミニマリスト、か。なんだかすごく、いいひびき。わたし、それになりたい。

そうと決まれば、A は急げ。午後、わたしはおばあちゃんの服を捨てたときと同じ、特大サイズのゴミ袋をにぎりしめて、元の部屋にかけこんだ。そして、自分の持ちものを「B」っぱいかどうかという視点で、選別していった。

ところが、やりはじめると、おじいちゃんやおばあちゃんのを捨てたときみたいに、5 ばばっとはすませられない。

自分のものは、たとえそれが、長いあいだ開けてもいなかった引越し段ボールの底から出た、もう存在もわすれていたようなものであっても、見た瞬間に、なにかしらの思い出がわいてくる。

これは小三のときに買ったカーディガン（もう小さい）。これは入院したときに使ってたタオル（ボロボロ）。こっちは6 花火大会の夜店で、お父さんに買ってもらった、昆虫みたいな触覚の先にLEDライトがついていて、ボタンをおしたらオレンジ色に光るプラスチック製のカチューシャ（あきらかに、二度と使わない！）……。

「どうしよう、むずかしい！ 自分の持ちものと、7 心を鬼にできない。いちいち思い出にひたっちゃって、ぜんぜん作業が進まないよ。」

いったん一階において相談すると、聖子さんは電動丸ノコという、重たそうな道具で木材を切る作業の手を止めて、

C と、あっさり返事した。

「ものの整理は、心の整理でもあるからねえ。自分の頭の中にある、いろんな記憶や感情を、そう簡単にばいばい捨ててしまえる人がいたら、それはミニマリストというより、たんなる心ない人でしょ。」

「心ない人と、ミニマリスト、ちがうの？」

D 「でも聖子さん、おばあちゃんの服を捨てるとき『情けをかけるな』って言ったじゃん。それは、心を鬼にしろってことだと、わたしは思ってたんだけど。」

「もの自体には、情けは不要よ。おばあちゃんの持ちものに、るるこの記憶とむすびついたものなんか、なんにもなかったでしょ？ それを捨てたところで、るるこの心には、なんの影響もない。だけど、るるこの持ちものには、それにまつわる人との思い出とか、使ってたときに感じた気持ちやむすびがついてる。そのむすびつきを解除しないまま、ものだけを捨ててしまっても、意味ないのよ。」

きいて、花火大会のカチューシャを、ゴミ袋に入れられなかったときの気持ちを思いかえしてみた。

確実に、絶対に、二度と使うことなんかないがらくたなのに捨てられなかったのは、それがなくなったら、お父さんのことを思い出す機会が、ひとつ減りそうだったからだ……。

「るこは、インターネット使えるんでしょ？」

「E」

「そして、*リンクってわかるでしょ。あるサイトのページに、ちょっと色^{いろ}がいの文字とか、よく目立つ画像とかで、別のサイトのURL^{URL}がうめこまれていて、そこを踏^ふんだら、ジャンプする。ものを見るって、脳の中のリンクを踏むようなものなのよ。目にしただけで、自動的に、それと関連する記憶に飛んじやう。だから、いろんなものであふれかえった部屋^{へや}っていうのは、うっかり踏みたくならないリンクがあちこちにうめこまれて、本文^{ぶんぶん}がちっとも読みすすめないページに似てる。」

「うわあ、わかる。そういうの、すごいイライラする！」

調べたいことがあって、わざわざ検^{けん}索^{さく}してだしたページを読んでいたはずが、いつのまにかまったく関係のない広告マンガを読まされていること、よくある。それと同じように、いつのまにか、ぜんぜん関係ない昔^{むかし}のできごとを思いだしてしまっているのだ。そのできごとの時点と同じように、怒^{おこ}ったり、悲^{かな}しんだり、考えこんだりして、気がつく^きと何分もたっている。まるで心だけ、昔にタイムスリップしてみたいに。

「ミニマリストになりたい人っていうのは、あたしが思うに、⁸そういう過去のこまかい記憶に、いちいち感情をふりまわされたくない人なのよ。だけど、その記憶が呼びおこす感情が、まだぜんぜん自分の中で消化できていないうちに、リンクだけを切ってしまうと、心の中は片づかない。」

「I II 必要がある？」

「そういうこと。ものを見ながら、それとつながった記憶をひとつひとつりだして、納得^{なっく}のいってないことには答えをだしたり、悲しかったことはもう一回泣いたり。そうやって消化ができてしまえば、べつに心を鬼^{おに}にしくたって、優しいまま、自然と捨てられると、きがくるんじゃない？ 捨てられないなら、いったん、あの*トランクにでも入れておけばいい。」

「おばあちゃんのトランク？」

「そ。るるこが自分で言^いってたじゃない。がらくたでも、大事にしたいものがあるって。あのアクセサリーといっしょにとっておいて、寝^ねる前にとりだして、ながめたりしてみた？」

「そうか。そうやって遊^{あそ}んでいるうちに、気がすんじやうかもしれないだね。」

⁹コツがわかった気がしたので、わたしはまた部屋にもどった。そして、もう使^{つか}わないものをひとつひとつりあげては、それとリンクされている思い出^{おも}っていったいなんなのか、じっくりとさぐってみた。

まずは、小さくなったカーディガン。見ていると、お母^{はは}さんがこれを買^かってくれたときの記憶が出てくる。たしかにうれしいし、大切^{たいせつ}だけれど、それはいま、毎日着^きている服^{ふく}をながめるときにも、同じものがわきおこる。

だから、このリンクは、切^きってオッケー。よし、捨^すてる。

入院^{にんえん}したときのバスタオル。あのころは、いろいろと悲^{かな}しかったから、これを見ていると思^{おも}いだして、せつなくなる。その気持ちがまだ消化できないうちは、捨^すててもしかたがないのかな、と思^{おも}ったけど、よく見るとバスタオルのほかにも、入院^{にんえん}グッズがたくさん残^{のこ}っていた。よくれたブラシとヘアゴム、小さなバジャマにスリッパ、それに、きれいなハンカチサイズのタオルがたくさん。

このタオルハンカチも、入院^{にんえん}のためにお母^{はは}さんが買^かってきてくれたものだ。色^{いろ}ちがいの五枚^{ごまい}セットで、ひとつひとつにちがう種類の動物^{どうぶつ}の、かわいい刺^し繍^{きゆう}がついている。

「なんでもふいて使^{つか}ってね、毎日洗濯^{せんたく}してくるからね」って言^いってくれたっけ。でも、かわいくて、よくれたところをふく^{ふく}のにはもったいなくて、あまり使^{つか}わなかった。退^{せん}院^{だん}してからも、引き出しに大事にしまいこんでしまって、そのまま存在^{そんざい}をわすれていた。これじゃまるで、おばあちゃんの「F」とおんなじだ。

これはいまの部屋に移動^{いどう}させて、もっとふだんから、積極的に使^{つか}うことにしよう。学校^{がっこう}が始^{はじ}まったら、日替^{ひが}わりで毎日持^もっていこう。そうすれば、もっと頻^{ひん}繁^{はん}にあのころのことを思^{おも}いだせるし、ほかのものを処分^{しぶん}しても、心のリンクを切ることはない。

だから、古^{ふる}びたバスタオルと、¹⁰そのほかのものは、捨^すててよし。

お父^{ちち}さんの買^かってくれた、花火^{はなび}大会^{たいかい}のカチューシャ……。見ると、どうしても思^{おも}いだす。あのころはまだ、お父^{ちち}さんとお母^{はは}さんは、おたがいに、手^てをつないだりもしていたのだ。

考え^{かんが}ないように、考え^{かんが}ないように、心の奥^{おく}底^{そこ}でふたをしていたけれど……二人^{ふりごん}が離婚^{りこん}したのは、どう考えても、わたしの入院^{にんえん}がきっかけだ。わたしの「せい」じゃなく、あくまで「きっかけ」にすぎないけれど、「わたし」がきっかけなのは事実^{じじつ}だから、気が重^{おも}いことに変わりはない。

……これはまだ、捨^すてない。

ほかのアクセサリーといっしょに、トランクに入れておこう。そしてときどき、寝^ねる前にとりだして、そっと頭^{かぶ}につけてみよう。まっ

令和七年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語（その七）

くらの部屋の中でスイッチを入れて、光らせて鏡にうつして遊ぶ。

そうやって、わたしはひとつひとつ、¹¹時間をかけて、ものを減らしていった。

（木地雅映子『ステイホーム』より）

※リノベーション：建物の改修のこと。

※ダイニングキッチン：ふ台所と食卓のこと。

※ビス：木材加工に用いられるねじのこと。

※リンク：異なるサイト間をつなぐ働きをするもの。

※URL：インターネット上の情報が保管されている場所を示す住所のようなもの。

※トランク：大型の旅行かばん。

1 ——— 1 「絵描くのうまいね」とありますが、聖子さんにほめられたのち、どのような「絵」を描くようになりましたか。具体的に説明している連続した二文を本文からさがし、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

2 ——— 2 「なにかの『才能』とありますが、どのような能力ですか。本文から十二字で二つぬき出して答えなさい。

3 ——— 3 「それ以来、わたしはもっと積極的に、絵を描くようになった」とありますが、もともとどのような目的で絵を描いていたのですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 尊敬している聖子さんから基礎を勉強したという教科書をもったことで、自分が一人前になったような気がして、もっとうまくなれるように練習しておこうという目的。

イ 学校にいる、人物やキャラ画のうまい子たちに影響されて描いていた絵が、自分の絵の基礎になっていると気づいて、後で振り返られるようにしておこうという目的。

ウ おじいちゃんが残してくれた家具があまりにすてきだったので、古くなっていくものがこわれてしまう前に描きとめて残しておこうという目的。

エ 作業のうち危険ではないものを、できるだけ手伝うことで覚えたことは、いつか自分の力だけでもできるように、手順を図入りでメモしておこうという目的。

4 ——— 4 「書斎に部屋をうつしてから、この部屋に残したものが必要になって、とりにもどったことって、一回もない」とありますが、どういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア いまの部屋があまりにしゃれているので、よいいなものを加えて雰囲気^{ふんいき}をこわしたくないということ。

イ いまの部屋にあるものは、日々の暮らしに必要なものと、気に入っているものだけで構成されているということ。

ウ 前の部屋にあったものは、全部ゴミのようなものだったと、改めて実感しているということ。

エ 前の部屋に置きっぱなしにしているものも、落ち着いたら必要だと感じる可能性があるということ。

5 A に入る漢字一字を答えなさい。

6 B に入る語句を、本文から六字でぬき出して答えなさい。

7 ——— 5 「ばばっとはすませられない」とありますが、どういうことですか、次の空らんの条件に合うように、—— 5より前の本文からぬき出して答えなさい。

（ 十三字 ）を残すことが難しいということ。

8 ——— 6 「花火大会の夜店で、お父さんに買ってもらった、昆虫みたいな触覚の先にLEDライトがついていて、ボタンをおしたらオレンジ色に光るプラスチック製のカチューシャ」とありますが、これを捨てられないのはなぜですか。本文から三十字以内でさがし、はじめの七字をぬき出して答えなさい。

令和七年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語（その八）

9 ——— 7「心を鬼にできない」とありますが、どういうことですか。次の空らんの条件に合うように、本文からぬき出して答えなさい。
ものに（ ） 五字以上十字以内 （ ） ということ。

10

C

E

 に入る会話文として最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。
ア そりゃちがうわよ。 イ うん、まあ、それなりに。 ウ そりゃ、あたりまえよ。

11 ——— 8「そういう過去のこまかい記憶」とありますが、どのようなものですか。本文から二十九字でさがし、はじめの七字をぬき出して答えなさい。

12 【 I 】と【 II 】に入る語句の組み合わせとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア I…実物を捨てる

II…リンクしている記憶を整理する

イ I…リンクしている記憶を整理する

II…実物を捨てる

ウ I…あるページを検索する

II…広告マンガを読んでしまう

エ I…広告マンガを読んでしまう

II…あるページを検索する

13 ——— 9「コツ」とありますが、どういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア ものとつながった記憶にひきこまれて、気がつくとき時間がたってしまうようなものは思いきって捨てて、捨てられないものを少しでも減らしていけばよいということ。

イ ものとつながった記憶のためにイライラしたり、二度と使わないと思えたりするものは、いちいち感情にふりまわされないように、トランクに入れておけばよいということ。

ウ ものとつながった記憶に納得したり、気がすんだりしたものは捨てて、まだ気のすまないものはしばらく取っておいて、時々ながめたりしてみればよいということ。

エ ものとつながった記憶はあくまで個人の領域のなかでのことなので、他人に相談するよりも自分自身の力で乗り越えることができるように努めればよいということ。

14

F

 に入る語句として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 使いこんだ味のある食器

イ 決して使ってはいけない食器

ウ 大切な日だけに使う食器

エ 使うのがもったいない食器

15 ——— 10「そのほかのもの」とありますが、これに当てはまらないものとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 小さなパジャマ

イ 五枚セットのタオルハンカチ

ウ 入院したときのスリッパ

エ よくれたブラシとヘアゴム

16 ——— 11「時間をかけて」とありますが、なぜ時間がかかると考えられますか。次の空らんの条件に合うように、本文からそれぞれぬき出して答えなさい。

ものとリンクしている（ i 三字 ）をじっくりさぐり、その実物にふれていく日々を送って、自分の中で（ ii 二字 ）できたと感じるようになるから。

令和七年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語（その九）

三 次の1～10の――部のカタカナを漢字に、11～15の――部の漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 贈り物にするので、きれいな和紙でホウソウしてください。
- 2 私たちは同じドヒョウに立っていないので、単純に比較することはできない。
- 3 空港行きのバスのウンチンはそれぞれ現金で支払ってください。
- 4 彼はヒトゴみの中で、自分の名前が呼ばれるのを聞いた。
- 5 志望大学のエンカクを調べたことで、入学したい気持ちがいよいよ強くなった。
- 6 二十年ぶりに同窓会が開かれ、友人やオンシとタイムカプセルを掘り出した。
- 7 あなたはこのチームのリーダーとして、ダンコたる態度をとるべきだ。
- 8 良い経営者ならば、社員の正当な要求に耳を力すはずだ。
- 9 教え過ぎてしまうと、若者の才能のメを摘むことになりかねない。
- 10 人の表情や態度から、その人の感情を推しハカることができる。
- 11 今回の食事は二人で折半しましょう。
- 12 この本は、法律を学ぶ学生にとって、まさに座右の書と言えるものだ。
- 13 家を建て替えるため、しばらくは仮住まいでの生活となる。
- 14 校則を変えるときは、生徒総会で決を採ることになっている。
- 15 当時は七年連続の干害のため、人々の生活は大変苦しかったようだ。

[illegible][illegible]

受験番号

ここにシールを貼ってください



251210

12

現実

13

ア

(嘘を言う)

11

I

馬

II

馬

III

嘘をつく

10

ウ

8

ア

9

言う必要の

を言うこと

7

てしまから。生きることに慣れ

かを誤魔化して

とが当たり前に

安易に困難や苦しさを逃げるこ

4

①

カ

②

オ

③

ア

5

古今東西

6

エ

3

(1)

本当のことを言っ

癖。

(2)

自分が属する

というよう

状況。

2

良し悪しが明

結果が短期間に

1

歯

13

かりずまい

14

とる

15

かんがい

9

芽

10

量る

11

せっぱん

12

ざゆう

5

沿革

6

恩師

7

断固

8

貸す

1

包装

2

土俵

3

運賃

4

人混み

16

i

思い出し

ii

消化

12

ア

13

ウ

14

エ

15

イ

10

C

ウ

D

ア

E

イ

11

それにまつわる

9

情けをかける

8

お父さんのこと

7

必要最小限の上質なもののだけ

6

ミニマリ

スト

3

エ

4

イ

5

善

2

・ものを三次元でとらえる力

・設計画的なものを描く才能

1

アニメのか

三

二